

安全データシート

作成日 2014/01/30
 改定日 2022/05/01
 版番号 3.2 版

1. 化学品及び会社情報

化学物質等の名称	ファルコン SJ
グレード	LE タイプ、HE タイプ、FE タイプ
会社名	ヒートロック工業株式会社
担当部門	開発事業部
住所	新潟県新潟市秋葉区川口字乙 580-15
電話番号	0250-21-6030
FAX 番号	0250-21-6033
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	道路舗装用途

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性		該当危険性はない
健康に対する有害性		
急性毒性	経口	区分に該当しない
	経皮	区分に該当しない
	吸入(ガス)	区分に該当しない
	吸入(蒸気)	分類できない
	吸入(粉塵、ミスト)	区分 4
皮膚腐食性／皮膚刺激性		区分 3
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		区分 2B
呼吸器感作性		分類できない
皮膚感作性		区分に該当しない
生殖細胞変異原性		区分に該当しない
発ガン性		区分に該当しない
生殖毒性		分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		区分 2
誤えん有害性		区分に該当しない
環境に対する有害性		
水生環境有害性 短期(急性)		分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)		分類できない
オゾン層への有害性		分類できない

上記で記載がないものは区分に該当しないまたは分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

警告

- ・皮膚に接触すると有害のおそれ
- ・長期又は反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害のおそれ
- ・吸入すると有害(ミスト)のおそれ
- ・眼刺激
- ・発がんのおそれ

注意書き

安全対策

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・通常は高温熔融状態で使用されるため、火傷、火災に十分注意すること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・粉塵および煙を吸入しないこと。取扱い後は良く手を洗うこと。
- ・ストレートアスファルトは硫黄分を含み硫化水素を発生する恐れがある。また、加熱時に一酸化炭素を発生する場合がある。硫化水素や一酸化炭素を吸い込まないように、屋外又は換気の良い

応急措置	<p>場所でのみ使用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眼に入った場合:直ちに多量の水で数分間冷やすこと。付着したアスファルトはそのままにし、医師の診断、手当てを受けること。 ・皮膚に付着した場合:直ちに多量の水で数分間冷やすこと。付着したアスファルトはそのままにし、医師の診断、手当てを受けること。 ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。 ・汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。 ・ばく露又はその懸念がある場合:医師の診断、手当てを受けること。 ・気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
保管	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暗所で保管すること。
廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ・内容物を廃棄する時は、関係法令に基づき、自社で適正に処理するか廃棄物処理業者に委託して処理すること。
3. 組成及び成分情報	
単一製品・混合物の区分	混合物
化学名	改質アスファルト合材
	ストレートアスファルト 約 5%~20%
	改質ポリマー 約 0.5%~2%
	砕石、砂など天産物 約 80%~95%
官報公示整理番号(化審法)	鉱油 9-1720
官報公示整理番号(安衛法)	鉱油 12-189
CAS 番号	アスファルト 8052-42-4、改質用ポリマー 非公開
	改質用ポリマーとしては
	1) スチレン・ブタジエン共重合体(化審法(6)-134)CAS9003-55-8
	2) ゴム・熱可塑性エラストマー 非公開
	など、ほとんど公開されていない。
労働安全衛生法	第 57 条の 2 通知対象物 鉱油
4. 応急措置	
吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・医師の手当、診断を受けること。 ・気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちに患部を大量の水で冷やすこと。 ・多量の水と石鹸で洗うこと。 ・気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> ・清浄な水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け、最低 15 分間した後、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> ・眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。 ・ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。 ・気分が悪い場合は、医師の診断、手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレートアスファルトは硫黄分を含み、硫化水素を発生する恐れがある。また、加熱時に一酸化炭素を発生する場合がある。 ・硫化水素のばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす 400~700ppm、30 分~1 時間のばく露では、急性死が考えられ、700ppm 以上の吸入は意識喪失や死につながる呼吸系統の麻痺を起こす。 一酸化炭素中毒の目安として、<300ppm なら影響は小さく、<600ppm で、軽度の作用があり、<900ppm で中ないし高度の影響がある。1000ppm 以上になると危篤症状が現れ、1500ppm 以上では生命の危険に及ぶ。
5. 火災時の措置	
消火剤	<ul style="list-style-type: none"> ・霧状の強化液、粉末、乾燥砂、炭酸ガス、泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	<ul style="list-style-type: none"> ・棒状注水
特有の危険有害性	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼の際は硫化水素、一酸化炭素等の有害ガスが生成されるおそれがある。 ・溶融アスファルトの蒸気は眼や呼吸器の粘膜を刺激する。
特定の消火方法	<ul style="list-style-type: none"> ・火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 ・周囲の設備等に散水して冷却する。 ・火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護		<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の設備などに散水して冷却する。 ・消火作業は風上から行い、適切な空気呼吸器、化学用保護具を着用する。
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		<ul style="list-style-type: none"> ・作業者は適切な保護具(8.ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し眼、皮膚への接触侵入を避ける。 ・直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 ・関係者以外の立入りを禁止する。 ・漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 ・風上に留まる。 ・室内で漏洩した場合は、窓、ドア、を開け、十分に換気を行う。
環境に対する注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 ・環境中に放出してはならない。 ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
封じ込め及び浄化の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・少量の場合、砂あるいは不燃性吸収剤を用いて集め、容器に入れて後で廃棄する。
及び機材		<ul style="list-style-type: none"> ・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。 ・消火器材を準備する。
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策 安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・硫化水素を含む場合があるため、容器等に直接顔を近づけない。 ・高温状態で水と接触させない。 ・接触、吸入又は飲み込まないこと。 ・眼に入れないこと。 ・取扱い後はよく手を洗うこと。 ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ・環境への放出を避けること。 ・「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	接触回避 保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ・高温、高湿を避けること。 ・熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 ・酸化剤から離して保管する。 ・容器は直射日光や火気を避けること。
	混触危険物質 容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"> ・データなし ・製品使用容器に準ずる。
8. ばく露防止及び保護措置		
設備対策		<ul style="list-style-type: none"> ・この物質を取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ・空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 ・高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
管理濃度 許容濃度		<ul style="list-style-type: none"> ・製品に対する有用なデータなし ・製品に対する有用なデータなし ・日本産業衛生学会、勧告値なし(アスファルト) ・米国産業衛生専門家会議(ACGIH) TLV-TWA:0.5mg/m³ STEL:勧告値なし(Asphalt fume as benzene-soluble aerosol)
保護具		
呼吸器用の保護具		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具		<ul style="list-style-type: none"> ・保護手袋を着用すること。
眼の保護具		<ul style="list-style-type: none"> ・保護眼鏡(必要によりゴーグル型)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて個人用の保護具、保護面を使用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
物理状態		<ul style="list-style-type: none"> ・固体
色		<ul style="list-style-type: none"> ・黒色
臭い		<ul style="list-style-type: none"> ・データなし
臭いの閾値		<ul style="list-style-type: none"> ・データなし
融点、凝固点		<ul style="list-style-type: none"> ・54-173℃

沸点、初留点及び沸騰範囲	・300℃以上
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	・データなし
引火点	・260℃以上
自然発火温度	・約 480℃
分解温度	・データなし
pH	・データなし
動粘度率	・測定不能
溶解度	・有機溶剤に一部可溶、水に不溶
n-オクタノール／水分配係数	・データなし
蒸気圧	・データなし
蒸発速度	・データなし
密度及び／又は相対密度	・2.10(LE タイプ)、2.26(HE タイプ)、2.12(FE タイプ)
相対ガス密度	・データなし
粒子特性	・データなし
10. 安定性及び反応性	
安定性	・通常の保管及び取扱いの条件においては安定である。
反応性	・通常の条件では危険有害反応は起こらない。
避けるべき条件	・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。
危険有害な分解生成物	・強酸化剤との接触は避ける。
その他	・燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	・ラット LD50 >5000mg/kg に基づき区分に該当しない。(IUCLID, 2000)
経皮	・ラット LD50 >5000mg/kg に基づき区分に該当しない。(IUCLID, 2000)
吸入(蒸気)	・データがなくて分類できない。
吸入(ミスト)	・ラット LD50=2.18mg/L (IUCLID, 2000)
皮膚腐食性・刺激性	
・ウサギを用いた皮膚一次刺激性(4時間適用)試験結果の記述から軽度の刺激性を認めている複数の報告がある。	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	
・ドレイズテストの結果、低～軽度の刺激性あり。	
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
・呼吸器感作性 : データなし	
・皮膚感作性 : データなし	
生殖細胞変異原性	
・データ不足のため、分類できない。	
発がん性	
・IARC でグループ 3 に分類されている。	
また、軽度の処理油は IARC グループ 1 と分類されている。	
生殖毒性	
・データ不足のため、分類できない。	
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	
・黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを3ヶ月毎に200mg皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。	
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	
・アスファルトヒュームの吸引試験(マウス、6～7h/日、5日/21ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮及び皮膚肥厚が認められた。	
吸引性呼吸器有害性	
・動粘性率が8000mm ² /s以上であるので区分に該当しない。	
12. 環境影響情報	
生態毒性	
・データ不足のため分類できない。	
残留性／分解性	
・残留性	
生体蓄積性	
・データなし	
土壌中の移動性	
・データなし	
オゾン層への有害性	
・モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため、分類できない。	
他の有害影響	
・データなし	
環境基準	
・データなし	
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	
・廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を厳守し、適正に処理する。	

14. 輸送上の注意

国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
国内法規制	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	非危険物。船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	非危険物。航空法に定められている運送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

15. 適用法令

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)	特定化学物質、監視化学物質に該当しない。
消防法	該当しない
労働安全衛生法	法第 57 条の 2、施行例第 18 条の 2 別表第 9
毒物劇物取締法	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制

16. その他の情報

参考文献

- ・ICSC(2001)
- ・IUCLID(2000)
- ・ACGIH(2001)
- ・IARC33(1984)
- ・EHC 20(1982)
- ・NITE GHS 分類公表データ
- ・RETES(2006-2011)
- ・危険・有害物便覧(中央労働災害防止協会)
- ・ECHA Registered substances Database
- ・ECHA C&L Inventory Database
- ・産衛学会

記載内容の取扱い

- ・記載内容は、現時点で入手出来る情報に基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。
- ・含有量、物理化学的性質等は保証値ではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合は、用途に適した安全対策を実施して下さい。
- ・危険性及び有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

以上